



授業風景

FRONTIER

教育・研究の最前線

アニメがもつ可能性——アニメは平和に貢献できるのか？

メディア・コミュニケーション研究所 准教授

みづたにえいじろう
水谷瑛嗣郎

皆さんの好きな「アニメ」は何でしょうか？

『呪術廻戦』、『ちいかわ』、『葬送のフリーレン』など、さまざまな作品が日々世に生み出されています（SF好きの私は、今は『攻殻機動隊』を欠かさず観ています）。このような「アニメ」がもつポテンシャルにはどのようなものがあるでしょうか？ 例えば、世界では（残念ながら）紛争が絶えませんが、人種や民族を超えた対話のきっかけとして、日本の「アニメ」が共通の話題となることがあり得るのではないのでしょうか。メディアアコムで2026年度春学期に三田キャンパスで開講された「アニメ平和学」は、そうした発想から始まりました。もともとはX Dignityセンター主催の「アニメ平和学ブートキャンプ」がきっかけで、法務研究科の山本龍彦教授、イノベーション推進本部の渡邊直之特任准教授と共に、多彩な専門分野の講師陣をゲストにお迎えして開講しました。

ところで、「アニメ」という言葉にもさまざまな切り口が考えられます。まず「コンテンツ」としての側面があります。その場合、海外のアニメ（例えば『トイ・ストーリー』等）と日本のアニメに

は「平和」構築という点で違いがあるのでしょうか。また「表現技法」や「表象」の側面から見れば、人々の体験に影響を与えるという点で実写とは何が異なるかという疑問も浮かぶでしょう。国際政治の視点では日本のアニメは「ソフトパワー」として重要な位置付けであり、アニメを「産業」や「ビジネス」の観点から議論することも欠かせません。もちろん、アニメには戦争を後押しするプロパガンダに利用された負の「歴史」もあります。このように一口にアニメといってもその視座は多彩であり、同時に「平和」という言葉も、「戦争がない状態」という意味にとどまらない多義性をもっています。

このようにアニメ平和学はまだ建造途中の分野であり、この講義をきっかけに、アニメが平和構築にどのように寄与するのか（あるいはしないのか）、学生の皆さんと共に創り上げていくことを目指しました。そのため、講義はテーマ発表も取り入れ、なるべく学生の皆さんに能動的に関わってもらえる形態にしています。皆さんもぜひ、この新しい研究分野の開拓に参加してみませんか？